

海外安全対策情報（ポルトガル・2025年10月～12月）

1 治安情勢等及び邦人被害の状況

(1) 治安情勢等

ア 2024年の犯罪発生状況（2025年全体の犯罪発生状況は未公表であり2024年のデータが最新）

2024年の一般犯罪認知件数は、354,878件で、前年比4.6%（17,117件）減少しましたが、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年と比較すると5.7%増加しました。

凶悪重大犯罪の認知件数は14,385件で、犯罪全体に占める割合は3.9%です。前年比では2.6%増加しましたが、2019年と比較すると0.1%減少しました。

2024年中の凶悪犯罪の中では、特に路上強盗及びひったくりが最も多くを占めています。

増加傾向が目立った犯罪としては、ひったくりが前年比8.7%増（174件）、強姦が前年比9.9%増（49件）、住居における強盗が10.9%増（49件）、商業施設等における強盗が21.7%増（80件）、乗物盗が前年比106.3%増（134件）、銀行等における強盗が128.6%増（18件）となっています。

イ 2025年中発生 of 殺人事件（暫定値）

報道によると、2025年中に国内で少なくとも108件の故意的殺人事件が記録されました。近年の傾向は、犯人のうち多数が男性で、家族や恋人等顔見知り同士の関係によるものが多く、日常で入手が容易な包丁やナイフなどの使用が確認されています。

ウ 被害者支援の拡充について

ポルトガル被害者支援協会（APAV）は、2025年中に111,854件の相談を受理し、そのうち、犯罪その他の暴力に関する支援要請を35,341件（前年比13.1%増加）登録したと発表しました。支援を受けた被害者数は、18,549人（前年比11.5%増加）で、2020年と比較すると41.7%増加しています。犯罪、暴力の種類では、家庭内暴力が最多で26,124件、次いで未成年者への性的虐待が1,076件、身体的傷害が889件となります。被害者のプロフィールについて、約75%が女性、平均年齢は37歳、被害者と加害者との関係では、配偶者が14.6%、次いで父母が13%となっています。APAVは、外国籍者への被害者支援も行っています。

エ 窃盗の手口について

共和国警備庁（GNR）は、「種まき手法」と呼ばれる窃盗の手口について注意を呼びかけています。ショッピングセンターの駐車場やガソリンスタンド、ATM周辺などで小銭や鍵などをわざと落とし、注意を引きつけている間に車内などから金品を盗む手口で、犯人グループは事前に単独で行動している人物を中心に標的を選び、複数名で役割分担をしながら犯行に及び、車などで逃走します。この手口は、スペインのマドリッドなどでも発生しています。

(2) 邦人被害

2025年10月から12月の間、大使館に届出があった邦人の犯罪被害件数は9件（すり、車上ねらい被害）でした。

注意していただきたいエリアとしては、リスボン市内のコメルシオ広場、サン・ジョルジュ城、バイホ・アルト地区、ベレン地区及びポルト市など人通りの多い観光地です。バックパックやショルダーバッグのファスナーを開けられ貴重品を抜き取られたり、カフェのカウンターに置いた鞆を盗まれたりしています。人の多い場所では、鞆を正面で持つなど盗難対策をしましょう。

路上や観光スポットはもちろん、レストランやホテルのロビーにも窃盗グループが常駐し、犯行の機会を窺っています。食事の際、路上演奏を聴く際、写真を撮影する際、支払をする際などには、手荷物を常に視界に入れて、被害に遭わないよう気をつけて下さい。

ア 10月 すり4件

イ 11月 すり2件、車上ねらい1件（2名）

ウ 12月 すり2件

※ ご旅行に際しては、在ポルトガル大使館作成「安全の手引き」をご覧ください、外務省海外安全情報配信サービス「たびレジ」への登録もお願いします。

2 報道された犯罪

(1) 殺人

10月21日、ヴァゴス市内の住宅で、49歳の女性が14歳の息子に銃で撃たれて死亡しました。女性はヴァゴス市の副市長（PSD）で、当初、息子は強盗によるものと主張していましたが、その後犯行を自供しました。

(2) 強盗

ア 11月12日4時40分過ぎ、リスボン市マルティン・モニス広場で、男性が3人組に刃物で腕を切り付けられ、身に着けていた金のネックレスを奪われました。

イ 11月16日午後、リスボン市エドワルド7世公園で、男性がバイクに乗った2人組に襲われ、高級腕時計を盗まれました。

ウ 12月11日、リスボン市ベレン地区の路上で女性2名が2人組に羽交い絞めにされ、所持品を奪われました。その後の捜査で、16歳と19歳の少年2名が逮捕されました。

エ 12月17日、オエイラス市アルジェス地区において、男が通行人の身に着けていたネックレスをひったくって逃走しましたが、その後、カスカイス市内サン・ドミンゴス・デ・ラナ地区で逮捕されました。

(3) すり

ア 10月23日、リスボン市サンタ・マリア・マイオール地区の地下鉄駅で、2人組の女が被害者に近づき、券売機の使い方を説明しながらクレジットカードの暗証番号を盗み取りました。その後、同じ車両に

乗り込んで被害者の財布を盗み、カードを使って約1,300ユーロの買い物をしたとして、警察に逮捕されました。



イ 12月4日、シントラ市内にある観光名所ムーアの城跡で、60代男性観光客が22歳と26歳の2人組に財布を盗まれましたが、近くに居合わせた通行人が犯行に気づいて2人組を取り押さえ、警察に引き渡しました。

(4) その他

ア 11月30日4時過ぎ、リスボン市サントス地区カルロス1世通りにある飲食店近くで、若者らのグループが乱闘騒ぎを起こし、20代の男が別のグループの2名を刃物で刺し、警察官に逮捕されました。

イ 12月23日、リスボン市内で交通事故を装って修理代をだまし取っていた42歳の男が警察に逮捕されました。男は、同市内の複数のショッピングセンターで高齢者を狙って、車をぶつけられたとして修理代を出すよう強要していたもので、少なくとも12名の被害が判明しています。

3 テロ・爆弾事件発生状況
ありません。

4 誘拐事件発生状況
日本人を標的とした政治目的、身代金目的等誘拐事件の把握はありません。

5 対日感情

良好です。

6 日本企業の安全に関する諸問題

外国籍（日本資本を含む）企業が、犯罪に巻き込まれた情報の把握はありません。